



Top Message

Tokyo Nursing Association

公益社団法人東京都看護協会は、東京都において、過去70余年にわたり看護の職能団体として人々の健康とQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に貢献してまいりました。

保健師、助産師、看護師及び准看護師が看護に関する教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図るとともに、安心して働き続けられる環境づくりを推進し、もって人々の健康な生活の実現に寄与することを目的とし活動しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延拡大により国内のいずれの医療機関においても通常の診療や治療が実施できず、さらに救急患者の受け入れ困難や、入院・手術の予定が延期を余儀なくされ、患者と家族の面会ができなくなるなど、感染症治療以外の医療も甚大な影響を受けました。医療・看護のみならず、社会経済も多大な影響を被りました。

現在、自粛一色の日々からそれぞれの活動が少しずつ再開しました。私たち看護職は、このパンデミック後をどう乗り切っていけばよいのか。世界が直面しているこのコロナ問題のみならず、自己の利益だけを考えて利己的な行動を取ってはいは解決できず公正性が求められること、さらに、立場の弱い人ほど「健康」が脅かされ、危機に直面している状況の中、私たち東京都看護協会が果たす役割はますます大きくなっていると言えるでしょう。

現在のこの状況は、これまで問題となっていた医療的な課題を達成するための挑戦であると同時に、問題を解決する機会でもあります。当協会ではコロナ禍で変容した社会課題を見つめ直し、新たな需要と捉え、変革の入り口として、社会に貢献する新たな看護の展開を生み出すこともできると考えております。

引き続き厳しい状況が予測されますが、看護職が一丸となり、医療提供体制確保のためにさまざまな取り組みにチャレンジしてまいります。

過去の延長線上にないこの新時代を生き抜く上で必要なのは、確かな知識と教養をもとに将来を見通すビジョンと行動力ではないでしょうか。当協会でも、研修はもとより学会や地域住民向け施策などあらゆる事業を発展させ、人々が健康で安心して暮らすことができるよう、会員の皆さまとご賛同くださった賛助会員の皆さまとともに、誠実に効果的な社会貢献活動を推進してまいります。今後とも変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

令和3年9月

公益社団法人東京都看護協会

会長

山元忠子